

摂食障害研修システムの構築研究

分担研究者 安藤哲也 学校法人国際医療福祉大学 心療内科 教授
研究協力者 河合啓介 国立国際医療研究センター国府台病院 心療内科 診療科長
吉内一浩 国立大学法人東京大学 医学部附属病院 准教授
高倉 修 九州大学 心療内科 講師

研究要旨

次年度に予定されている、強化型認知行動療法 (Enhanced Cognitive Behavior Therapy; CBT-E)、モーズレイ神経性やせ症治療 (Maudsley Anorexia Nervosa Treatment for Adults; MANTRA)、および小児治療のパイロット研修に向けての準備として神経性やせ症に対する CBT-E の研修のためのマテリアル (スライド資料) を作成した。研修講師の養成と事例検討のため CBT-E の原著者のひとりによるケーススーパービジョンを実施した。CBT-E、MANTRA および小児治療のワーキンググループに対して研修計画に関するアンケートを作成した。

A. 研究目的

標準的治療法の研修システムを構築することで、摂食障害治療に対応可能な多職種の育成、エビデンスに基づく標準的治療法の全国への普及を実現し、標準的治療の汎用化、早期介入から外来治療、入院治療、心理療法、身体治療の連続的、地域包括的なケアモデルの構築を推進する。

日本摂食障害学会、日本精神神経学会、日本心身医学会、日本小児心身医学会、日本認知療法・認知行動療法学会等の関連学会の役員、摂食障害全国基幹センター、治療支援センターの参画により、本研究の成果の治療プログラム、指針を国内外の関連学会、研修会を通じて多職種チーム、患者及び家族への普及に貢献する。厚生労働省の摂食障害対策、医療連携体制の構築、地域包括ケアシステムの推進、神経性やせ症 (Anorexia

Nervosa ; AN) の標準的治療法の診療報酬化に貢献する。

3年間の研究期間内の到達目標は、①神経性やせ症の CBT-E、MANTRA、身体的治療、小児治療のパイロット研修を少なくとも一回開催する。②研修の効果を評価し、研修方法の開発にフィードバックする。

今年度は、次年度に予定されている、CBT-E、MANTRA および小児治療のパイロット研修に向けての準備を行った。

B. 研究方法

1) AN の CBT-E の研修の資料作成
AN の CBT-E の研修の資料のうちスライド資料を作成した。Oxford 大学の Center for Research on Eating Disorders at Oxford (CREDO) のオンライン研修 (Web-centered training) のスライド資料に基づい

て作成した。

2) 神経性やせ症のCBT-Eのケーススーパービジョン

研修の準備として神経性やせ症症例の検討のため、CBT-E 開発者の一人 Zafra Cooper 教授のケーススーパービジョンを実施する。

3) 研修作成の進捗状況の確認

CBT-E、MANTRA および小児治療のワーキンググループ (WG) に対して研修計画に関するアンケートを作成した。

C. 研究結果

1) AN の CBT-E の研修の資料作成

原著者の許可を得て Center for Research on Eating Disorders at Oxford (CREDO) の Web-Centered Training の Print Slides Notes Supplementary CBT-E

Modules の Underpatients-Part1, Part2 のスライド資料を日本語訳し「CBT-E 簡易マニュアル運用のための研修会ワーキンググループ」の「神経性過食症の認知行動療法 CBT-E 研修」のスライド資料、高倉らの「AN に対する CBT-E 簡易マニュアル」との整合性の確認し、資料案を作成した。

2) 神経性やせ症のCBT-Eのケーススーパービジョン

令和3年度は13回、令和4年度は17回のオンラインでのビデオ会議形式でグループでのケーススーパービジョンを実施し、7例のAN症例について検討を行った。

3) 研修作成の進捗状況の確認

CBT-E、MANTRA および小児治療の WG の研修計画について、研修目標、研修方略、教育方法を、年度内および長期的な計画について問うアンケート用紙を作成した。

D. 考察

令和5年度にCBT-E、MANTRA および小児治療のパイロット研修実施を予定しておりそれに向けて準備を行った。

1) AN の CBT-E の研修の資料作成

BN に対する CBT-E の研修の資料は CREDO の Web-centered training のマテリアルを参照して作成されているため、AN に対する CBT-E の研修資料も CREDO の Web-centered training のマテリアルに基づいて作成することが整合性、互換性の観点から妥当である。今後、本研究班 CBT-E WG および日本心身医学会・日本心療内科学会・日本摂食障害学会 3 学会合同 「CBT-E 簡易マニュアル運用のための研修会ワーキンググループ」での研修内容の検討を行う予定である。

2) 神経性やせ症のCBT-Eのケーススーパービジョン

AN に対する CBT-E を教育するためには研修作成者や、研修講師が AN に CBT-E を実施した症例を多数経験することが必要であり、開発者によるグループでのケーススーパービジョンは研修講師養成のための有効な方法と考えられる。

3) 研修作成の進捗状況の確認

アンケート調査は令和4年度中に実施する予定であったが、作業に遅れが出たため、令和5年度初めに実施する。

E. 結論

CBT-E、MANTRA および小児治療のパイロット研修に向けての準備として神経性やせ症に対する CBT-E の研修のためのマテリアル (スライド資料) を作成した。研修講師の養成と事例検討のため CBT-E の原著者のひとりによるケーススーパービジョンを実施した。CBT-E、MANTRA および小児治

療のワーキンググループに対して研修計画
に関するアンケートを作成した。

F. 健康危険情報

本研究による健康危険は考えられない。

G. 研究発表

1. 論文発表
- 1) 安藤哲也：摂食障害の治療支援ネットワークの指針と簡易治療プログラムの開発の背景と概要. 精神神経学雑誌. 124 (12): 849-854, 2022.
- 2) 安藤哲也：摂食障害の疫学. 臨床精神医学. 52(3): 229-236, 2023.
- 3) Sugaya N, Tomita Y, Funaba M, Iida H,

Shirotsuki K, Gardner FC, Odawara T, Ando T, Inamori M : Validity and reliability of the Japanese versions of cognitive and behavioral scales for irritable bowel syndrome. BioPsychosoc Med. 16(1):15, 2022.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

I. 参考文献

- 1) 切池信夫（監訳）、Christopher G. Fairburn（原著） 摂食障害の認知行動療法 医学書院 2010.